

修学旅行が終わり、あっという間に6月になりました。6月は、部活動では3年間の集大成である備南東総体があります。どの部も他校との練習試合に余念がなく、本気の姿が頼もしくもあり、うれしくもあります。郷内っ子らしく粘り強く戦ってほしいです。

修学旅行



「学べ!! 楽しめ!! はじけろ!! チームヤンバル郷中 ～55人の旅 沖縄編～」のスローガンで巡った修学旅行が無事に終わりました。出発当日の朝は風がとても強く、岡山空港から離陸直後は揺れましたが、那覇空港で出迎えてくれた“めんそーれ”の看板で、一気に気分は沖縄になりました。

昼食後、最初に訪れた場所は、糸満市にあるひめゆりの塔でした。平和集会をしたあと平和祈念資料館に入り、戦争で犠牲になった方々の写真やパネル、映像、手記などから戦禍の大きさを知りました。



【生徒の感想から】

- 被災された方の映像で話されている言葉ひとつひとつを聞いていると、「怖い」だけでは表されない本当に悲惨なできごとだったのだと実感できた。
- ひめゆり学徒隊の方たちが、爆弾が飛び交う中で看護や炊事のための水を汲みに行き、とても怖い思いをして命がけで働いていたのに、自分たちのご飯は、1日おにぎり1個だったことを知り、どんな思いで解散命令を聞いたのかと思うと涙が出た。
- 亡くなった学徒隊の人たち一人一人の顔写真と性格、亡くなった理由が書いているパネルが、一室すべての壁にはられてあり、多くの人が犠牲になったことが理解でき、戦時中はたいへんな世の中だったことがわかった。
- 実行委員の人たちが考えてくれた平和宣言を、平和集会で心の中で一生懸命に唱えて平和を祈りました。

平和宣言 「私たちは 沖縄で起きた 悲惨な過去を学び 後世へ伝えていきます」

ひめゆり平和祈念資料館の見学後、バスで30分くらい北に移動し、南風原文化センターと沖縄陸軍病院壕を見学しました。途中の風景は米軍基地が多く、車窓から間近にオスプレイを見ることができました。



【生徒の感想から】

- 実際に病院だった壕は、説明してくれた方の話がとてもリアルだったし、文化センターのベッドに寝ている軍人の模型を見た時、現実にはたくさんの方たちがけがをして、苦しんで亡くなっていったのかと思うと胸が痛くなった。
- 今も沖縄のあちこちから爆弾の破片が出てくることを知り、1日も早く沖縄の人たちが安全に暮らせるようにしてほしいと思った。

(裏面に続く)

1日目は、住民を巻き込んだ地上戦である沖縄戦の爪痕を実際に見て、思ったことや考えたことなどを15歳の自分の心に刻み、1泊目のホテルに向かいました。

予定よりも少し早めに到着したので、ホテルのプライベートビーチで、きれいな石やサンゴを見つけたり、砂浜で水遊びをしたりして、沖縄の海を満喫しました。海水の温度が下がり、肌寒かったのもいい思い出です。



【生徒の感想から】

- 沖縄の砂はサラサラで、ヤドカリを見つけるのが楽しかった。
- 玄関の後ろからの景色は、山や家があって、教科書にあった屋根が平らな家がたくさんあった。
- 友だちと海で遊んだり、BBQを交代で焼いたりして楽しい思い出ができた。



2日目は、美ら海水族館を見学し、午後は東村の入村式でした。お世話になる家の方が、車で迎えに来てくださり、入村式のあとに緊張した表情でそれぞれの家に分かれて民泊体験をしました。

【生徒の感想から】

- マンゴー農園に行き、葉っぱを回収する仕事を頑張りました。ビニールハウスには、パッションフルーツやドラゴンフルーツなど南国のフルーツがたくさん育てられていて、すごいと思いました。
- パイン畑で苗並べをがんばった。しんどかったけど楽しかった。
- 三線を弾かせてもらったり、沖縄そばを食べさせていただいたりして、沖縄の生活が体験できた。



3日目の朝、入村式では緊張して話しもできなかったのに、一日一緒に過ごしたら、もう親戚のように感じるのは不思議ですね。離村式では「またおいでねー」と優しく声をかけてくださったり、グータッチで「お元気でー」と健康を気遣うあいさつが聞けたりして、感動しました。離村式の前に、お世話になった民家さんとお話をしていると、「生徒さんが、よく働いてくれて助かりましたよ。」とか、「気持ちの良い子ばかりだったですよ。来年も来てくださいね。」「あいさつが気持ちいいですね。」とお褒めの言葉をたくさんいただきました。離村式のあと、私たちのバスが見えなくなるまで、皆さんで手を振ってお見送りをしてくださっていたそうです。気持ちの良い交流ができたことで、民泊の目標も達成ですね！

午前9時頃、東村をあとにして、「道の駅かでな」に向かいました。「基地に隣接する唯一の道の駅」として有名で、展望所から嘉手納基地を見学し、3階の学習展示室では各自で騒音の体験や平和学習をしました。残念ながら、この日は飛行機の離発着を見ることはできませんでした。



嘉手納から、首里城に向かいました。

2026年の正殿完成に向けて、「見せる復元工事」が進められており、間近で作業の様子を見学することができ、迫力がありません。首里城の見学を終えると、いよいよ修学旅行の最後になる国際通りの班別研修でした。牧志公園から県庁前駅までを班でまとまって行動し、時間通りに那覇空港までゆいレールで集合できるかどうか、はらはらしましたが、見事に全部の班が無事にゴールすることができ、ほっとしました。

この修学旅行を振り返ると、ほとんどの人の感想にも書いていたように、ルール・マナーを全員で守り、実行委員さんを中心に前向きな声かけができたことと、しっかりと平和学習ができたと思います。大人になってもう一度沖縄を訪れ、15歳の自分が感じたことを思い出してほしいです。



保護者の皆様へ

修学旅行では、お子様の健康面に関する調査や準備等、たいへんお世話になりました。全員が参加し、有意義な研修ができましたのも、ご家庭のご協力のおかげと、深く感謝しております。6月中旬に、決算報告をいたします。

